学校番号	４０７

平成３１年度　芸術科（書道）

教科	芸術	科目	書道Ⅰ	単位数	２単位	年次	１年次
使用教科書	「書Ⅰ」　（教育図書）						
副教材等	なし						

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

■小・中学校で身に付けた書写能力を基礎にしながら、毛筆による技法を身に付け、線質と墨・紙・筆との関係を理解しましょう。
■古典作品の臨書を通して、毛筆の技法を身に付けましょう。
■錬度を高めることで、集中力を養いましょう。
■添削を繰り返すことで、美意識を養いましょう。

２　学習の到達目標

・書道の幅広い活動を通して、生涯にわたり書を愛好する心情を育てる。
・感性を高め、書写能力の向上を図り、表現と鑑賞の基礎的な能力を伸ばす。
・書の伝統と文化についての理解を深める。

３　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:書への関心・意欲・態度	b:書表現の構想と工夫	c:創造的な書表現の技能	d:鑑賞の能力
観点の趣旨	書の創造的活動の喜びを味わい、書の伝統と文化に関心をもって、主体的に表現や鑑賞の創造的活動に取り組もうとする。	書のよさや美しさを感じ取り、感性を働かせながら、自らの意図に基づいて構想し、表現を工夫している。	創造的な書表現をするために、基礎的な能力を生かし、効果的な表現の技能を身に付け表している。	日常生活の書の効用や書の伝統と文化について幅広く理解し、その価値を考え、書のよさや美しさを創造的に味わっている。
評価方法	・観察 ・発問に対する答え方 ・ノートのまとめ方	・観察 ・添削時の発問に対する答え方 ・提出作品	・観察 ・提出作品	・観察 ・他者の作品に対する評価 ・提出作品 ・ノート

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
Ⅰ		・オリエンテーション	○				書道教室の使い方、用具用材の正しい使い方、授業への取り組み方、挨拶と返事の習慣化	・発問に対する答え方 ・ノートのまとめ方
	楷書の学習	『牛けつ造像記』の臨書	○	○			a:見たまま、感じたままを口頭で表現できている。 b:毛筆を使って、見たまま、感じたままを表現できている。 c:特徴的な線質を習得し倣書作品を完成できる。 d:自由作品として表現できる。	・観察 ・添削時の発問に対する答え方 ・提出作品
Ⅱ	楷書の学習	『顔氏家廟碑』の臨書	○	○			a:見たまま、感じたままを口頭で表現できている。 b:毛筆を使って、見たまま、感じたままを表現できている。 c:特徴的な線質を習得し、倣書作品を完成できる。 d:自由作品として表現できる。	・観察 ・添削時の発問に対する答え方 ・提出作品
	行書の学習	『蘭亭序』の臨書	○	○			a:見たまま、感じたままを口頭で表現できている。 b:毛筆を使って、見たまま、感じたままを表現できている。 c:基本点画の省略と連続、気脈・筆脈が習得できている。 d:行書の特徴を生かし、自由作品として表現できる。	・観察 ・添削時の発問に対する答え方 ・提出作品
Ⅲ	隷書の学習	『曹全碑』の臨書	○	○		○	a:見たまま、感じたままを口頭で表現できている。 b:毛筆を使って、見たまま、感じたままを表現できている。 d:隷書の特徴を習得し、倣書作品を完成できる。	・観察 ・添削時の発問に対する答え方 ・提出作品
	仮名の学習	『高野切第三種』の臨書	○	○			a:仮名の書美を鑑賞し、基本線の練習から始める。 b:線の太細により、古筆の特徴が表現できる。	・観察 ・提出作品
	創作	1年間の課題を参考にして、好きな言葉を自由に表現した半紙作品を制作する。			○		a:ノートを完成させ、自由作品として表現できる。 c:古典・古筆の特徴を生かした表現ができる。	・ノートを完成させる。